

本編 第Ⅱ部

はじめに

本学は、建学の精神を具現化するため、第Ⅰ期中期目標(2009年度～2013年度)、第Ⅱ期中期目標(2014年度～2017年度)を策定し、2018年度からは第Ⅲ期中期目標(2018年度～2021年度)を設定した。

第Ⅰ期中期目標では、法令で定められている認証評価制度への対応も加味し、本学のミッションを実現するための目標と、法令で定められている認証評価制度の自己点検・評価項目の双方の内容を含んだ形で設定された。

第Ⅱ期中期目標では、より本学の独自性を打ち出すために、本学独自の目標と、認証評価制度で求められる自己点検・評価項目は明確に分け、並行して運用することとした。

第Ⅲ期中期目標では、学園マスタープランが策定されたことに基づき、建学の精神である「人類の幸福と恒久的平和の達成」に向けて、第Ⅲ期中期目標の基本方針を quality of life (QOL) の向上と定めた。健やかな社会の構築に向けて、教育・研究・連携をはじめとする諸活動を通じ、QOL の向上に対し積極的に取り組む。そして、教育機関として「人と社会と自然の共生」に向けて、世界で活躍する人材の育成に努めることで、新しい東海ブランドの確立を目指すこととした。

また、学園全体では、2042年の建学100周年に向けた25年間の長期戦略として2017年に「学園マスタープラン」が制定され、5か年で実施する業務の方向性を定めた「中期運営方針・事業計画(重点取組項目)【部門中期目標】」が策定された。そのため、東海大学第Ⅲ期中期目標は、学園マスタープランにおける「中期第Ⅰ期(2017～2021年度)運営方針・事業計画(重点取組項目)」と同期させ、取り組むこととした。

教育研究年報は、「年度単位で教育・研究等の活動成果を一つにまとめることによって、自らを振り返り、その結果から改善につながる行動を起こすことにつなげる」というPDCAサイクルの機能を担うものである。2021年度には事務系組織の改組も行われ、2022年度には全学的な学部改組とカリキュラム改定が行われる。組織変更やカリキュラム改定の効果を検証し、課題を認識し、改善活動につなげることが重要である。

なお今年度の自己点検・評価報告書では、全学的な教学マネジメントの視点から行った自己点検・評価結果を本文にまとめる形とし、学部・研究科による独自の取り組みや特記事項については本文中に別枠を設けて掲載する方式をとった。